

ぱれっと

2012
12月
No.160



P 2~3 **特集 | 7階サポセン事務用ブースに新しい顔ぶれ**

仙台ふるさと文化財の森を創る会
認定NPO法人IVY 宮城事務所 (IVYみやぎ)

P 4 **topic! | 若者による自治体デザインコンテスト「未来仙台市」開催レポート**

P 5 **ぱれっと読者アンケートのお願い**

P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ**

特集

7階サポセン事務用ブースに新しい顔ぶれ

市民活動サポートセンター7階には、市民活動団体の組織基盤強化を支援するための「事務用ブース」があります。2012年9月より、新たに事務用ブースに入居された団体の皆さんに、サポセンスタッフがインタビューをしました。どちらも、山形での活動経験を元に、宮城県での復興支援を行うため、サポセンに拠点を構えたとのこと。今後の活動についてお聞きしました。

仙台ふるさと文化財の森を創る会

「仙台ふるさと文化財の森を創る会(以下：ふる森)」代表の蜂谷哲平さんは、長い間、山形市を拠点とする「日本漆(うるし)総合研究会」で、漆に関する研究活動を続けてきました。このたびサポセンの事務用ブースを拠点として、宮城にも漆の「森」を創る活動を展開することになりましたので、その活動についてお話をお聞きしました。



Q：ふる森の活動を教えてください。

A：県内沿岸部を中心に、漆の「森」を創る活動を始めました。宮城県内には、瑞宝殿、大崎八幡宮、東照宮、塩竈神社、瑞巖寺等々、数多くの漆を塗った建造物が点在しています。これら重要文化財や文化財建造物を修理し、後世に伝えていくためには、木材や檜皮(ひわだ)、茅(かや)、漆(うるし)などの資材の確保と、資材の採取に関する技能者を育成することが必要です。ふる森では、文化財建造物に広く使われている資材の一つである漆を守り、増やし、地産地消を図るため漆の「森」を創ることを目的に活動しています。

Q：国内の「漆」の状況はどうなっていますか？

A：地元で採れた漆で修復するのが文化財建造物にとって一番良く、修理した後も長持ちするのです。ところが、現状は県内産どころか、日本の漆の生産量は全体の0.1%。99.9%は輸入品でそのほとんどが中国産というのが実状です。漆を苗木から育て実際に塗料として使用するまでには、10~20年ほどかかり、気の長い話なんです。ですから、今からでも生産の準備をしようとしているのです。文化財として貴重な価値のある建造物が、修復できず埋もれてしまうのはもったいないことですから。

Q：どのように漆の「森」を創っていくのですか。

A：現在、土地の確保が実現しておりませんので、これが最大の課題です。農地法や農地振興地域の整備に関する法律の規制がありとても難しいので

すが、土地の確保に奔走中です。土地が確保できれば、ボランティアを募りながら、「森」を創っていきたくと考えています。漆は、林業で特用林産物として扱われて、茶、桐、桑、こうぞ、みつまたと同じ範中に入ります。他の広葉樹との混植であることが望ましく、下地にはレンゲやクローバーなどを植え多様性のある「森」を創っていきたくですね。単に漆の採取だけでなく、養蜂を営む等の可能性もできますので、高齢者や被災地の方々の雇用にもつなげられたらと思っています。

Q：仙台に拠点を構えるにあたっての抱負は？

A：まずは、協力会員を増やすことです。事務用ブースには、総務・企画、経理の事務局機能を置き、現場担当者と協力して事業を進めていきます。木を植えれば資源として回っていくという循環型社会の形成を目指し、地域の活性化やふるさとの文化財建造物を守るために役立つ漆の「森」を創り、ひいては復興のシンボルとして観光につなげていきたいと思っています。
(インタビュー：葛西淳子)

○ 団体情報 ○

仙台ふるさと文化財の森を創る会

○ 連絡先 ○

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3

レターケース No.3

TEL：090-7321-4337 FAX：022-268-4042

E-mail：hacico@db3.so-net.ne.jp

認定NPO法人IVY(アイビー) 宮城事務所 (IVYみやぎ)

山形に本部を置く認定NPO法人IVYは、サポセン事務用ブースに入居し、「IVYみやぎ」として、仙台を拠点に国際協力活動を開始しました。宮城県内における新たな活動の展開について、IVYみやぎの堀野さんにお話しをお聞きしました。



Q：IVYは宮城や仙台でこういった活動を行っていますか？

A：私たちは、カンボジアでの農村支援と山形の在住外国人支援などを行うNGOです。また東日本大震災発生後は、宮城県沿岸での復興支援や、福島県から山形に避難している母子の支援などを行っています。

昨年で団体設立から20年を迎え、活動をさらに充実させていく予定です。その第一歩として、仙台に「IVYみやぎ」としての新たな拠点を置き、国際協力、社会貢献、市民活動を盛り上げていく人材やパートナーを発掘していきたいと考えています。市民活動が盛んな仙台ですが、国際協力の分野では本格的なNGOはまだ少なく、市民や他分野の市民活動、企業の方々と連携することで、仙台から新たな動きを創っていきたいと思っています。

Q：人材の発掘や育成へとつなげる活動をどのように行っていくのですか？

A：まずは、先進的なテーマや面白い切り口のイベントを開催し、意欲のある人たちを見つけていきたいと考えています。その第1弾として、12月15日(土)に、IVY Social School Vol.1「企業とNGOの進化するパートナーシップ」を開催します。震災支援で連携している(株)ユニクロから、CSR部のシェルバ英子氏をゲストに迎え「NGO/NPOと協働する企業側のメリット」「企業とNGO/NPOが求めるものの違い」「連携による成果や課題」を検証し、より良い協働のためのポイントや新しいパートナーシップの形を考えます。

このイベントに限りませんが、スキルや経験を持つ社会人の方々の参加を促していきたいです。NGO活動や市民活動と仕事の両立が難しいと考える方もいらっしゃると思いますが、仕事や職場以外で社

会との関わりをもつことで、新たなやりがいや役割に気づいてもらえたらと思います。

Q：IVYみやぎとしての独自のプロジェクトもお考えのようですが、どのようなものですか？

A：「Creating New Project (仮題)」として、新たな人材と共に新たなプロジェクトを創っていくことを計画しています。仙台の人であれば、誰もが昨年の震災を経験し、復旧・復興活動に参加した人も多いと思います。この震災の経験とNGOの開発協力のノウハウを組み合わせ、途上国支援の新規プロジェクトを創るというコンセプトです。勉強会から開始して、現地調査をし、資金調達の方法を考えて…とプロセスを踏む中で、人材育成や関係者のネットワーク形成をしていくのが狙いです。立ち上げたばかりでまだまだこれからですが、宮城や仙台からNGOに携わる人材を広げていきたいと思います。

(インタビュー：堀隆一)

* 社会人や学生など6名で活動中です！

○ 団体情報 ○

認定NPO法人IVY (アイビー) 宮城事務所 (IVYみやぎ)

○ 連絡先 ○

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3
レターケース No.12

E-mail : ivymiyagi@gmail.com

HP : <http://www.ivymiyagi.jimdo.com>

○ 本部 ○

代表理事 枝松 直樹 (エダマツ ナオキ)

〒990-2432 山形県山形市荒楯町一丁目17-40

TEL : 023-634-9880

FAX : 023-634-9884

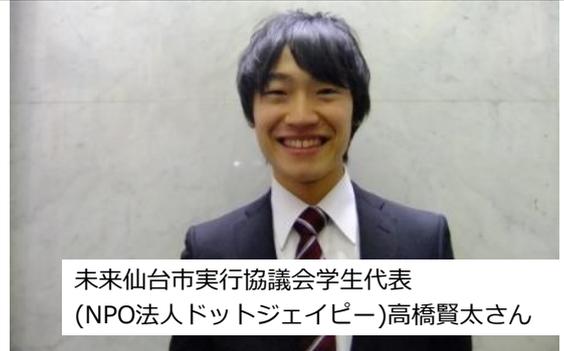
E-mail : LER04525@nifty.com

(注意:Rの次は数字のゼロです)

(IVY公式HP : <http://www.ivyivy.org/>)

若者による自治体デザインコンテスト「未来仙台市」

「未来仙台市」とは、自分たちが住みたいまちの30年後のビジョン実現のために、「もし自分が仙台市長だったら」というテーマのもとで10年後の重点政策と予算を若者自らがデザインし、競い合うコンテストです。主催は仙台市、仙台市明るい選挙推進委員会、NPO法人ドットジェイピーで構成される協議会です。今回はキックオフイベントに密着取材し、「未来仙台市」実行協議会学生代表(NPO法人ドットジェイピー)高橋賢太さんにお話を伺いました。



未来仙台市実行協議会学生代表
(NPO法人ドットジェイピー)高橋賢太さん

未来仙台市、開幕！

自治体デザインコンテスト「未来仙台市」が、震災を経験した仙台市を舞台に11月11日(日)に開幕しました。参加者は主に仙台市やその近郊の市町に住む、公募で集まった9チーム36人の学生です。中には外国籍の方や関東から参加している方もいました。

キックオフイベントであるこの日は、12月15日(土)～16日(日)に開催される予選・決勝大会へ向けて、地域生活の中で感じている問題意識を改めて書き出し、仙台市のあるべき姿をイメージするためのワークショップを行いました。



グループワークの様子

日頃の地域生活で感じている問題意識を書いてみよう！

ワークショップのテーマは「30年後のあなたのまちはどうあるべき?」。仙台市の魅力や資源、歴史をふまえながら、枠にとらわれない若者らしい自由な発想が主催者から求められました。

参加者からは観光や交通などのまちづくりに関する意見のほかに、震災復興の温度差を無くすためのアイデアや防災強化の意見も出て、復興に対する意識の高さがうかがえました。また、「NPOが就職の選択肢にあるまちづくり」という意見も出、震災を機にNPOがより身近な存在になっていることが感じられます。このような話し合いをもとに参加者の皆さんがどのような政策を打ち出していくのか、今後の展開が楽しみです。

未来の仙台市への想いを受け取ってほしい！

参加者はこれから予選・決勝大会に向け、自主ワークとセッションを重ねてビジョンを描き、重点政策を決めていきます。「参加者には、30年後の仙台市を自分たちで作っていくという当事者意識を持ってほしいです」と高橋賢太さん。参加するすべてのチームには、NPO法人ドットジェイピーの学生スタッフが担当に付いて、全般的な質問を受け付け、サポートします。決勝大会は12月16日(日)。入場無料で一般公開されます。どのチームの政策案が良かったかを決めるのは、観覧者のみなさんです。各チームのプレゼンを聞いて、自分が最も支持したいチームにその場で投票します。優勝チームが仙台市長と直接パネルディスカッションを行うところは、特に見どころです。「大会で参加者は一カ月半かけて作ったプランと想いを伝えます。ぜひ決勝を見に来て学生の社会に対する想いを受け取ってください」と高橋さん。大震災を経験した学生が地域の未来をどのように描くのか、学都仙台ならではの未来の自治体デザインをぜひ会場でお楽しみください。

(西川日和)

【決勝(一般公開)】

日時：12月16日(日)

決勝：14:00～17:15

会場：トラストシティカンファレンス・仙台

観覧料：無料 下記HPより事前申込制

○団体情報(お問合せ先)○

「未来仙台市」実行協議会
(NPO法人ドットジェイピー内)

○連絡先○

TEL：0120-098-214

E-mail：mirai@dot-jp.or.jp

HP：http://www.miraijichitai.com/sendai

F A X : 0 2 2 - 2 6 8 - 4 0 4 2

ぱれっと

読者アンケート

お陰様で、今月でぱれっと160号となりました。今後もみなさまに、より良い情報をお届けしていくため、「ぱれっと読者アンケート」を実施いたします。ご協力を宜しくお願いいたします。ご回答は、サポセン窓口、FAX、郵送、Webにて受け付けております。

■ 「ぱれっと」はどこで手に入れましたか？

- ①仙台市市民活動サポートセンター ②仙台市内ボランティアセンター ③仙台市内市民センター
④仙台市内図書館 ⑤①～④以外の仙台市内公共施設 ⑥WEB（サポセンのHP） ⑦他（ ）

■ 毎月ご覧いただいていますか？

- ①毎月 ②ときどき ③今回初めて

■ 市民活動・ボランティアの経験はありますか？

- ①ない ②ある →よろしければ以下の質問にもお答えください
どのような市民活動・ボランティア内容ですか？（ ）
どのくらいのペースで？ 週（ ） 月（ ） 年（ ） 回 今は活動していない

■ 興味のあるトピックは？（複数回答可）

- ①NPO ②ボランティア ③地域活動（町内会など） ④生涯教育 ⑤震災復興 ⑥起業
⑦シニア活動 ⑧その他（ ）

■ あなたの年代を教えてください

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

■ あなたの居住地を教えてください

- ①仙台市内 ②宮城県内 ③宮城県外

■ この記事が良かった、今後取り上げてほしい事柄など、ご意見やご感想をご記入ください。



ご協力ありがとうございました。

■特典：このアンケートにお答えいただいた方でご希望の方全員に『東日本大震災復興支援活動記録誌 3.11からの支援のかたちー「ぱれっと+まだ*これ」震災特集号』を差し上げます。

いる いない



送付先のご住所をご記入ください（窓口へ直接ご提出いただく場合は記入不要です）。

ご住所 〒 -

お名前

<個人情報の取扱いについて>ご記入いただいた個人情報は、特典発送の目的以外では使用いたしません。提出方法：窓口・FAX・郵送・WEB（サポセンHP）にて受け付けております。

〆切：2013年1月11日（金）

郵送の場合：〒980-0811仙台市青葉区一番町4丁目1-3

仙台市市民活動サポートセンター FAXの場合：022-268-4042

WEB回答の方は、携帯電話等で以下の2次元バーコードを読み取ってご利用ください



○読み取れない場合
<http://www.sapo-sen.jp>
にアクセスしてください。

市民活動サポートセンターからのお知らせ

「事務用ブース」入居団体募集

募集期間 12/3(月)～12/17(月)

サポセン7階にある、市民活動団体の組織基盤強化を支援するための「事務用ブース」の使用者を募集いたします。

使用期間: 平成25年2月～8月

対象: 継続的に市民公益活動を行い、市内に専用の事務所を持たない団体(企業を除く)。

募集数: 5ブース(選考)

使用料: 月額7,000円

設備等: 机・イス・ロッカー。面積約4m²
(サポセンHPで画像をご覧いただけます)

申込方法: 市民活動サポートセンターで配布する応募申請書(市HPからもダウンロードできます)にご記入の上、団体の運営に関する規則、活動内容及び、財務状況が分かる資料を添付し、下記申込先にご持参ください。(郵便・FAX不可)

申込先: 仙台市市民局市民協働推進課 二日町第四仮庁舎2階(アーバンネット勾当台ビル)

問合せ先: TEL022-214-8002 FAX022-211-5986

※詳しくは、募集要項をご覧ください。また、サポセンでは、応募申請書の記載にあたってのご相談や団体の活動の相談を行っています。

12/22

NPOも支援者も元気になる！ NPO資金調達のいろは

日時：12月22日(土) 午後2時～午後5時半

会場：市民活動サポートセンター6階
セミナーホール

参加費：1,000円

定員：30名(申込先着順)

内容：資金調達について考える上で重要な視点を学び、ご自身の団体について整理するワークも行います。

対象：活動実績のあるNPOマネジメント層
(代表、理事、事務局長など)

お申込：チラシ裏面の申込書にご記入の上、サポートセンター窓口又は、FAXにてお申込みください。

考えるテーブル

支援のかたち-被災地からの情報発信をデザインする-

日時：12月21日(金) 午後3時～午後5時

会場：せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア

*参加無料、申込不要、直接会場へお越しください。

内容：ゲスト団体より情報提供(※USTREAM配信)と参加者同士でのグループセッションを行います。

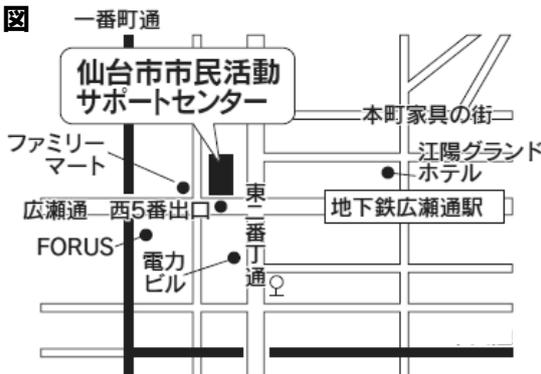
■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

【注】路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

【最寄のバス停】電力ビル前、商工会議所前

【地下鉄】広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日/午前9時～午後10時

日祝/午前9時～午後6時

■ 12月の休館日

第2水曜日 12/12

第4水曜日 12/26

■ 年末年始休館日 12/29～1/3

編集後記：

今月号で「ばれっと」は160号となりました。開館以来毎月発行し、震災の時も発行を続けました。今後もみなさんに読んで楽しい・お役にたつ情報をお届けしていきたいと思っています。ぜひ「ばれっと読者アンケート」にご協力ください。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2012年12月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

●ばれっとは、市内の公共施設、県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]